



# 石神井中だより

練馬区立石神井中学校

校長 山田 美鈴

令和7年5月8日

第2号

## 手を離して目を離さない

校長 山田 美鈴

令和7年度がスタートし、早1ヶ月が経ちました。本校の生徒はそれぞれに新年度のスタートにあたり、目標をもって意気揚々と学校生活を送っています。駆け出しに力が入りすぎて若干息切れしている生徒がいないかと心配はありますが、上手に心身を休めてほしいと願っています。

今年大型連休は、平日休みを入れて最大11連休の企業もあるようです。学校は暦通りの飛び石連休ですが、中学生になって初めての大型連休を迎えた1年生にとっては、部活動の大会などが入り、今までとは全く異なる休日を過ごす生徒もいたことでしょう。徐々に家族で共に過ごす時間も減っていくとは思いますが、長い時間を共に過ごさなくとも、瞬間に見せる我が子の様子をそっと見守り感じてほしいと思います。子育てにおける親の関り方は次のようによく言われます。

乳児・・・肌を離さない

幼児・・・肌を離して手を離さない

少年・・・手を離して目を離さない

青年・・・目を離して心を離さない



中学生期は基本的に少年期にあたります。大人から見て失敗が予想されることであっても、命に関わるようなことでなければ、手を離すことが大切です。しかし目は離さず、いつでも相談できる環境を整え、ともに考えるような見守りが必要です。(先日の保護者会でもお話しさせていただきました)

緊張の糸が切れて心身の疲れが一度に出やすい連休明けは、登校渋りや不登校が増える傾向にあります。中学生はストレスを抱えていても自覚できないこともあり、自分の状態を周囲にうまく伝えることにも慣れていません。子どもが発するサインをキャッチできるよう、子どもの様子をよく見ることです。サインはまず身体に出ます。頭痛や腹痛、吐き気、起床が辛いなど。もっとひどくなると痲癢を起しやすくなる、笑顔や口数が減る、夜中に何度も目が覚めるなど、今までとは違うと感じるようなことがあれば、注意深く見守っていきたいものです。「学校に行きたくない」など、ふと口にした時に「何言ってるの！頑張らないとだめでしょ！」といった対応をしてしまうと、子どもは心を開いて話せなくなってしまいます。「目を離さずよく見る」「よく聞く」ことが大切ですが、何も特別な構えではなく、笑顔で共に食事をするとか、リラックスした雰囲気の中でたわいもない話をするなど、くつろぎを実感できるコミュニケーションを心掛けていただきたいものです。自分は大切にされているという実感を子どもがもてれば、心身の疲れから脱し、次への活力につながっていくものと信じることです。人によってエネルギーの充電期間は異なりますが、周囲の大人が不安感を抱きすぎず、どこまでも子どもを信じて目を離さず寄り添っていきたいものです。

さて5月1日は本校の開校記念日でした。本校は昭和22年に石神井小学校の一部を借りて開校し、昭和24年に現在の地に校舎が完成し移転しました。校章は石神井公園三宝寺池に生息する「ミツガシワ」という植物を図案化したものです。令和9年度には80周年迎え、生徒、教職員、保護者、そして地域の方々と皆でお祝いしたいと思っています。昨年度までの本校卒業生は18769名。今後本校卒業生としての誇りを誰もがもてるよう、様々な活動を通して愛校心を育てていきたいと思っております。(80周年に向けて石神井中学校オリジナルキャラクターの募集を検討しています)